

# 概要版

## 郊外型大型商業施設開業に伴う影響（小規模店）

### 1. アンケート概要

鹿児島市に相次ぎ開業した郊外型大型商業施設の影響を調査するため、同市内の商店街に加盟する小規模店（店舗面積 1,000 m<sup>2</sup>未満）に、アンケート調査を実施した。

#### （1）調査の概要

##### ① 調査方法

- ・ 各商店街会長を通じて配布
- ・ 郵送またはFAX回収

##### ② 実施期間

平成 20 年 1 月 15 日（火）～2 月 8 日（金）

##### ③ 調査対象

鹿児島市内の商店街加盟店 1,831 店

##### ④ 回収数

438 店（回収率 23.9%）

##### ⑤ 調査項目

設問内容

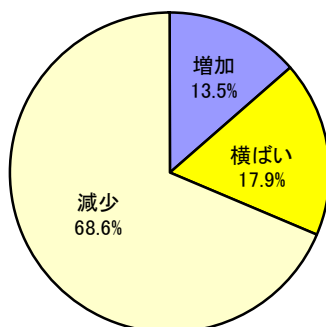
- 問 1 売上高およびその増減高、売上減少の要因  
（平成 19 年 10 月～12 月、平成 20 年 1 月、平成 20 年 1 月～12 月）
- 問 2 郊外型大型商業施設開業の影響およびその内容
- 問 3 郊外型大型商業施設開業に対する貴店の対応
- 問 4 今後、事業を行う上で重要と思われる項目
- 問 5 「まちづくり」（まちづくり会社）についての意見・要望

## 2. アンケート調査結果

### (1) 平成19年10月～12月の売上高 ～ 「減少」した店が7割

平成19年10月～12月の売上高について、前年同期と比べて「減少」した店が68.6%となり、「増加」した店は13.5%、「横ばい」の店は17.9%となった。

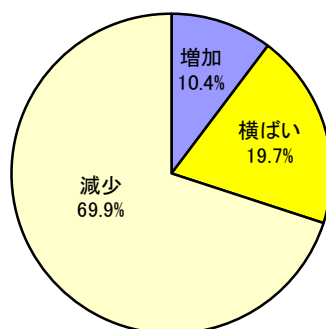
売上高の増減 (N=408 単数回答)



### (2) 平成20年1月の売上高 ～ 「減少」した店が7割

平成20年1月の売上高について、前年同期と比べて「減少」した店が69.9%となり、「増加」した店が10.4%、「横ばい」の店が19.7%となった。

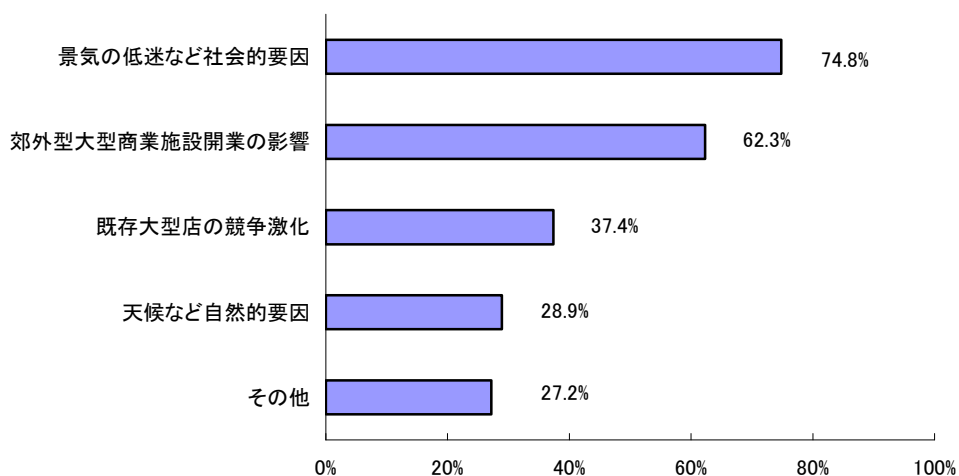
売上高の増減 (N=395 単数回答)



(3) 売上高減少の要因 ～ 「景気の低迷など社会的要因」が最多

売上高が「減少」した店の要因をみると、「景気の低迷など社会的要因」が 74.8%と最も多く、次いで「郊外型大型商業施設開業の影響」が 62.3%、「既存大型店の競争激化」が 37.4%となった。なお、「その他」としては、「道の駅の影響」「百円ショップの影響」「客層の高齢化」「経営者の努力不足」等があげられた。

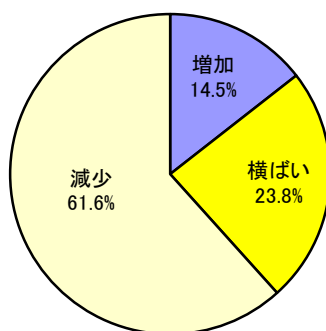
売上高減少の要因 (N=271 複数回答)



(4) 平成 20 年 1 月～12 月の売上見通し ～ 「減少」する店が 6 割

平成 20 年 1 月～12 月の売上見通しについて、前年同期と比べて「減少」する店が 61.6%と最も多く、次いで「横ばい」が 23.8%、「増加」が 14.5%となった。

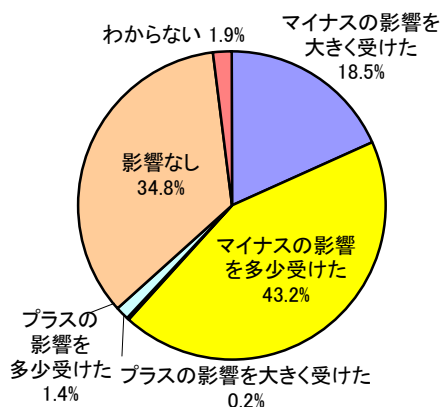
売上見通し (N=365 単数回答)



(5) 郊外型大型商業施設開業の影響 ～ 「マイナスの影響」が6割

郊外型大型商業施設開業の影響について、「マイナスの影響を大きく受けた」と「マイナスの影響を多少受けた」店を合わせると61.7%となり、約6割の店がマイナスの影響を受けている。一方、「プラスの影響を大きく受けた」と「プラスの影響を多少受けた」店の割合を合わせると1.6%に過ぎなかった。また、「影響なし」と回答した店は34.8%となった。

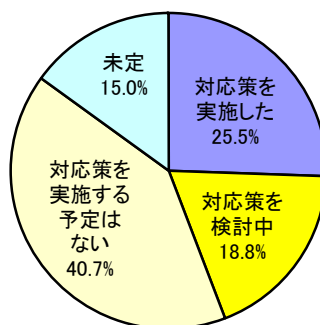
郊外型大型商業施設開業の影響 (N=428 単数回答)



(6) 郊外型大型商業施設開業に対する対応 ～ 5割以上が未対応

郊外型大型商業施設開業に対する対応について、「対応策を実施した」と「対応策を検討中」を合わせた割合は44.3%となり、「対応策を実施する予定はない」と「未定」を合わせた割合(55.7%)を下回った。

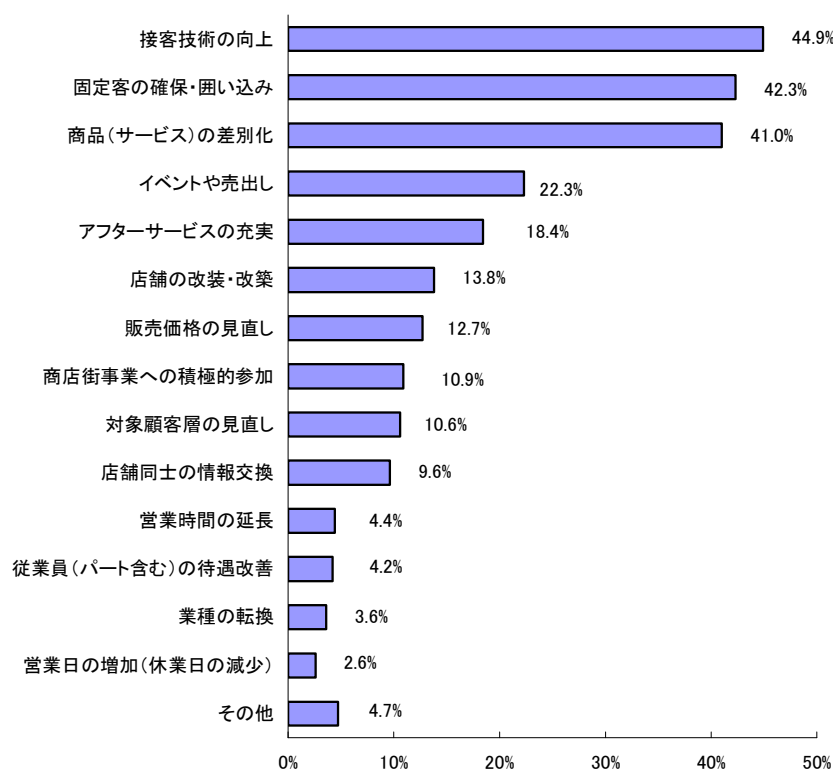
郊外型大型商業施設開業対応策の実施 (N=420 単数回答)



(7) 事業を行う上で重要な項目 ～ 「接客技術の向上」が最多

事業を行う上で重要な項目について、「接客技術の向上」が 44.9%と最も多く、次いで「固定客の確保・囲い込み」が 42.3%、「商品（サービス）の差別化」が 41.0%となった。「その他」の内容としては、「広告宣伝」「立地環境」「個々の商品価値向上」「駐車場無料完備」等があげられた。（図表 2-39）。

図表 2-39 事業を行う上で重要な項目（N=385 複数回答）



## 郊外型大型商業施設開業に伴う影響（大規模店）

### 1. アンケート概要

郊外型大型商業施設開業に伴う影響を調査するため、鹿児島市内の大規模店（店舗面積1,000 m<sup>2</sup>以上）に、アンケート調査を実施した。

#### （2）調査の概要

##### ⑥ 調査方法

- ・ 大規模店に配布
- ・ 郵送またはFAX回収

##### ⑦ 実施期間

平成20年2月4日（月）～2月29日（金）

##### ⑧ 調査対象

鹿児島市内の大規模店 66 店

##### ⑨ 回収数

33 店（回収率 50.0%）

##### ⑩ 調査項目

設問内容

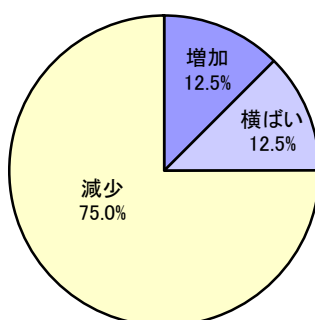
- 問1 売上高およびその増減高、売上減少の要因  
（平成19年10月～12月、平成20年1月、平成20年1月～12月）
- 問2 郊外型大型商業施設開業の影響およびその内容
- 問3 郊外型大型商業施設開業に対する貴店の対応
- 問4 今後、事業を行う上で重要と思われる項目
- 問5 「まちづくり」についての意見・要望

## 2. アンケート調査結果

### (8) 平成19年10月～12月の売上高 ～ 「減少」した店が7割

平成19年10月～12月の売上高について、前年同期と比べて「減少」した店が75.0%と半数以上を占め、「増加」した店は12.5%、「横ばい」の店は12.5%となった。

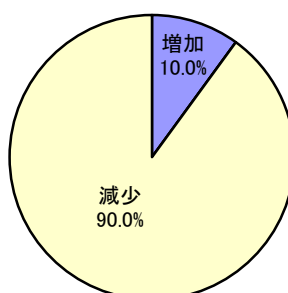
売上高の増減 (N=32 単数回答)



### (9) 平成20年1月の売上高 ～ 「減少」した店が9割

平成20年1月の売上高について、前年同期と比べて「減少」した店が90.0%と半数以上を占めた一方、「増加」した店は10.0%となった。

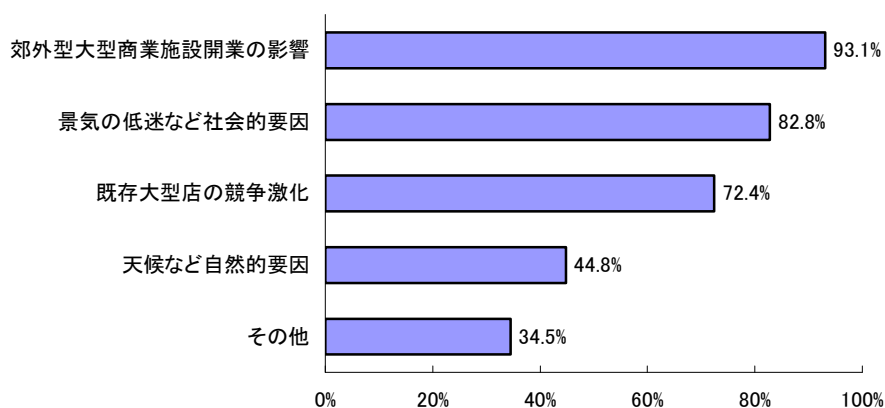
売上高の増減 (N=30 単数回答)



(10) 売上高減少の要因 ～ 「郊外型大型店開業の影響」が最多

売上高が「減少」した店について、減少の要因は、「郊外型大型店開業の影響」が93.1%と最も多く、次いで「景気の低迷など社会的要因」が82.8%、「既存大型店の競争激化」が72.4%となった。なお、「その他」としては、「店舗の老朽化」「販売スタイルの変更」「住宅着工戸数減」等があげられた。

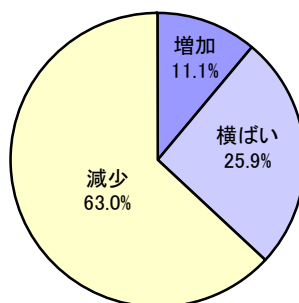
売上高減少の要因 (N=29 複数回答)



(11) 平成20年1月～12月の売上見通し ～ 「減少」の店が6割

平成20年1月～12月の売上見通しについて、前年同期と比べて「減少」する店が63.0%と最も多く、次いで「横ばい」が25.9%、「増加」が11.1%となった。

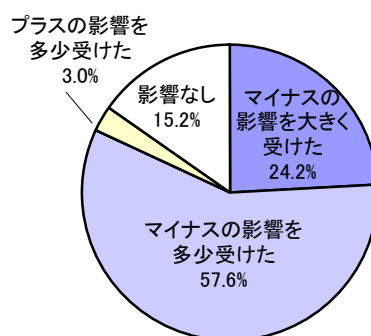
売上見通し (N=27 単数回答)



(12) 郊外型大型店開業の影響 ～ 「マイナスの影響」が8割

郊外型大型店開業の影響について、「マイナスの影響を大きく受けた」と「マイナスの影響を多少受けた」店を合わせると 81.8%となった。一方、「プラスの影響を大きく受けた」と「プラスの影響を多少受けた」店の割合を合わせると 3.0%に過ぎなかった。また、「影響なし」と回答した店は 15.2%となった。

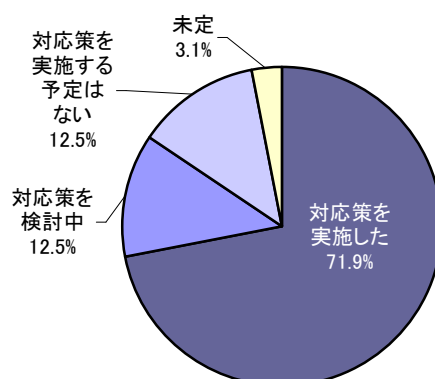
郊外型大型店開業の影響 (N=33 単数回答)



(13) 郊外型大型店開業に対する対応 ～ 7割が対応策を実施

郊外型大型店開業に対する対応について、「対応策を実施した」店は 71.9%となった。一方、「対応策を検討中」「対応策を実施する予定はない」がともに 12.5%、「未定」が 3.1%となった。

郊外型大型店開業対応策の実施 (N=32 単数回答)



- (14) 事業を行う上で重要な項目 ～ 「商品（サービス）の差別化」が最多  
事業を行う上で重要な項目について、「商品（サービス）の差別化」が 65.4%と最も多く、次いで「イベントや売出し」が 53.8%、「接客技術の向上」が 50.0%となった。

事業を行う上で重要な項目（N=33 複数回答）

